



2015年4月入職

こばやしいくま
小林生馬

継続的な学びが、成長につながる

この仕事は、身近な人も支えられる

この仕事を選んだきっかけは、私が高校生の頃に父親が透析治療を受けていたことです。父親が病気を患った当初は透析のことを何も知らず、「ただ寝ているだけでしょ」などと心ない言葉を発してしまったこともありましたが、しかし、透析について調べていくうちに、父親がどういった病気にかかっているのか、透析治療がなぜ必要なのかを徐々に理解していきました。

それまで医療の道に進むことは全く考えていなかったのですが、父親をサポートする人たちのように、自分も誰かのために生きてみたいと思いはじめるようになりました。また、医療に精通していると、身近にいる人が病気を患ったときに知識を役立てたり、その人が抱えている大変さを理解したりすることができ、父親に心ない言葉を発してしまったことへの後悔は、今も忘れていません。肉親が自分の病状を理解してくれていることは、当事者にとって大きな安心につながるはずです。患者さまへのサポートはもちろん、身近な人の心を支えられるという意味でも、この仕事には意義があると思っています。



弱点を克服するよい機会



私は注目されることがあまり得意ではありません。人前に立つと緊張してしまい、普段当たり前に行っていることができなくなります。ですから思いやりエキスパートの推薦も最初は断ろうと思ったのですが、上長から「まとまった研修を受けられるいい機会だから、このチャンスを大事にしたほうがいい」と背中を押されました。入職当初に習ったことを改めて見直し、それ以外の新しい技術や作法を身につけるタイミングとしてはよい時期かもしれないと思い、立候補することを決意しました。

研修では、他の候補生や講師から自分の手技や振る舞いを見られるため、つつい力が入ったこともありましたが、日々の現場だと当たり前に行えることも、注目されるとどうにもうまくゆきません。しかし、こういった状況下でも安定してスキルを発揮できるのが本当のプロフェッショナルです。そのためには、今回の研修で学んだことを継続して繰り返し行うことが大切です。1つの物事を続けることは苦手なのですが、今回の研修はその弱点を克服する上でもよい機会になったと捉えています。

常に笑顔を忘れず
すべてのお客さまから信頼される
臨床工学技士を目指します
小林生馬